広報 NISHIWAGA PUBLIC RELATIONS

にしわが

7月号 No.68
2011（平成23年）

「広報にしわが」は西和賀町のホームページでも公開しています。
http://www.town.nishiwaga.lg.jp/
西和賀町 検索

今月の内容

震災関連・災害状況……2～3P
川下り大会・雪氷まつり……4～5P
スポーツ大会情報……8～9P
町に関する情報……10P
地域レーダー……11P

元気に育てイワナさん

和賀川の清流を守る会記念事業
湯田小3年生がイワナ3,500匹を
錦秋湖に放流しました。（関連10P）

激震　東日本大震災

復興に向けて今こそ心ひとつに④

～西和賀町のように自然体で　多くが帰路へ～

町内に避難している皆さんの多くが陸前高田市への帰路につきました。およそ３ヶ月の本町での生活。たくさんのイベントや交流会などでの町民とのふれあい。あっという間の３ヶ月、心が癒された３ヶ月になったでしょうか。今後は、陸前高田市へ帰り、新たな一歩を踏み出すことになりますが、震災前の美しい故郷へ戻すためには、更なる試練が待っていると思います。しかし、西和賀町民はいつでも皆さんと心はひとつです。復興に向けがんばっていきましょう。

はまなすの会がお礼のあいさつに

７月７日、対滝閣に避難している人達で組織する「はなますの会」の代表３人が、本町を離れるにあたり細井町長へあいさつに訪れました。会の代表幹事である菅野兼治さんがお礼の言葉を述べ涙ぐむ場面もありましたが、西和賀町のように自然体でがんばっていくという決意も話してくれました。以下、菅野さんのお礼の言葉の一部をご紹介します。（関連・13Ｐ）

―――― お礼の言葉 ――――

７月７日、今こうしてこの日を迎えました。私にとっては特別な日でございます。４月４日から対滝閣にお世話になった時の思いと、今の思いを比較してみると雲泥の差です。この３ヶ月余りの期間はすごく凝縮された日々で、いろいろなことを体験しました。お粗末なことやら、ヘマやらでどうもすみませんでした。

役場の皆さん始め、病院の先生方、地元町内の皆さま、光寿苑の皆さまなど数えられないほどの応援をいただきました。

西和賀町でどこへ行っても誰と会っても共通して感じたのは、自分の家に何年ぶりかで帰ったときのような懐かしいほっとするそんな感じでした。今日おかげさまで仮設住宅に入ることになりましたが、私の妻がさりげなくいった言葉「いつかみんなで対滝閣に、西和賀町、湯本温泉に来たいね」私も必ず孫や子どもたちと一緒に来れる日を夢見て、いろんな環境の変化の高田で、私のできることを一つでも、皆様から頂いた勇気と夢をきばらずに、この西和賀町のように自然体でやっていけたらと思っております。今日はなんと言えばよいかうまく言えませんが、お礼の言葉を言える機会を与えられ本当に私はラッキーです。幸せものです。本当に皆さんありがとうございました。

平成23年７月７日

対滝閣避難者の会はまなすの会
代表幹事　菅野兼治

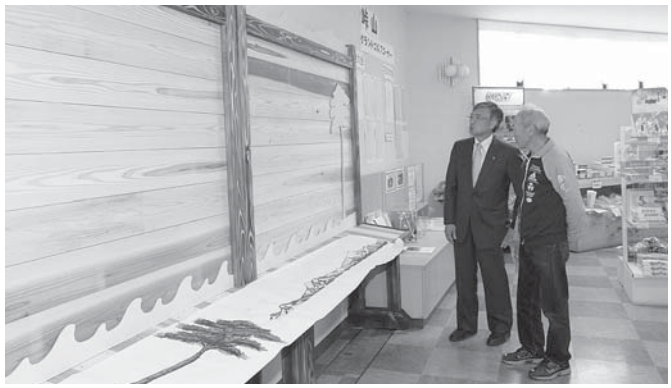
細井町長へお礼を述べる
菅野さん（中央）

友好のシンボルに・あずまやと掲示板が完成

本町に避難している気仙大工の村上幸一さんらが製作していた、峠山パークランドオアシス館のあずまやと掲示板が完成し、製作にかかわった13人のうち10人が出席し、６月15日に現地で落成式が行われました。細井町長と村上さんがテープカットを行い、皆さんに感謝状と記念品が贈られました。

製作したのは、あずまやが３棟、掲示板はオアシス館と道の駅錦秋湖にそれぞれ設置されました。掲示板は、西和賀のスギで作られ、高さ２ｍ、幅3.6ｍで和賀岳などの山並みと、陸前高田で津波から逃れた一本松とさざ波を描いています。村上さんは「今はみんな流されてしまい何も残っていませんが、この作業をしていくうちに、自分の家は自分で建てれるという自信がつきました」と話していました。

あずまやの前で記念写真（中央が村上さん）



町と陸前高田をつなぐ掲示板

町政調査会が大槌町議員団を激励

町議員で組織する町政調査会(湯澤正会長)では、6月29日に大槌町で災害ボランティア活動を行いながら、被災地の現在の状況を確認してきました。当日は、佐々木正裕議長はじめ8人が参加し、一般参加者も含め16人で家財清掃と泥の撤去作業などの作業を行いました。

また、議会として少しでも被災地のためにと佐々木正裕議長から大槌町議会阿部六平議長に対し、町議会として見舞金35万円を手渡しました。

佐々木議長から阿部議長へ

海水につかった家財を丁寧に拭き取り

西和賀高校は大船渡市で支援

県立西和賀高校の3年生64人は、7月7日に大船渡市でボランティア活動を行いました。男子生徒は側溝の泥上げ作業と水産加工会社の断熱材処理を行い、女子生徒は一般住宅の清掃・草取り作業、写真洗浄などを行いました。

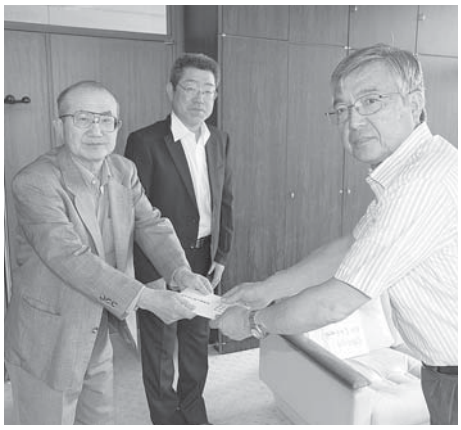
同高では、今後1、2年生もボランティアに派遣する予定とのことです。

海水がかかった思い出の写真を複製

クラブ活動で鍛えた腕力を生かして

湯本小閉校記念実行委員会から義援金

6月21日に、湯本小学校閉校記念実行委員会(小林厚志委員長・湯本)から義援金192,162円が細井町長へ手渡されました。これにより皆さんから頂いた義援金の総額は2,568,266円(7月19日現在)となりました。



小林実行委員長から細井町長へ

町を襲った記録的な豪雨家屋や農業用施設などに浸水も

6月23日夜から24日にかけて降り続いた豪雨による被害が相次ぎました。河川の氾濫による家屋や農業用施設への浸水があったほか、町道大杉沢線に架かる若畑橋の橋台が崩落する被害も発生しました。また、リンドウやイチゴなどの農作物にも大きな被害が生じるなど、町内全域に被害をもたらしました。

町は、24日に警戒本部から対策本部へ移行し、巡回パトロールを行い、区長とも協力して被害状況の調査を行いました。河川の氾濫により孤立した人がでたものの、幸いにも人的被害はありませんでしたが、床上、床下浸水などの住宅被害13件、農機具庫や畜舎の全壊、浸水等が13件、2次災害の危険による自主避難1件、公共施設被害4件となったほか、県道、町道の決壊等が18ヵ所、農林産業施設・畜産関係、頭首工や水路の崩壊、林道の崩落など多数の被害が発生しました。

被害総額は5億円にのぼるとみられ、今後は県や関係機関に被害状況を報告するとともに、連携をとりながら復旧に向けた取り組みを実施していきます。

盛岡地方気象台によると、降り始めからの24時間最大降雨量は沢内観測所で227㎜、湯田観測所で194㎜となり、6月の最大値を更新しました。

飯豊地区農業用施設が浸水

若畑橋の橋台が掘られて水道送水管が断裂

弁天島付近の水田が陥没し電柱が倒れる

丸志田地区住宅・畜舎に浸水

和賀川ゴムボート川下り大会

自然の恵みに感謝

和賀川の清流で52チームが集う

緊張の面持ちで宣誓

7月10日、錦秋湖湖面活用促進事業実行委員会の主催で町などが共催する和賀川ゴムボート川下り大会が行われました。昨年度は諸事情により中止となりましたが、通算20回目となる今年の大会。出場数は例年より少なく52艇でしたが、例年上位入賞を果たしている強豪選手らが揃い、熱い戦いとなりました。

6月24日の大雨の影響や、開催数日前からの雨の影響で開催も危ぶまれましたが、試乗によるコースの安全確認を入念に行い、今回の開催となりました。この大会は、槻沢の砂ゆっこ裏側の川原（通称：馬ころばし）をスタートし、湯之沢の焼地台公園付近をゴールとする約4．5キロのコースを2人乗りのゴムボートで下る競技です。和賀川のコースは流れの急な場所があり、逆に緩やかな場所もあるなど楽しめるコースで知られています。

開会式で細井町長は「3・11の大震災では自然の力のすごさ、恐ろしさを本当見せつけられましたが、今日は、自然の恵みに感謝して楽しませてもらうイベントです。思いっきり楽しんでください」とあいさつし、本町の米澤隆光さん（太田）・佐々木隆嗣さん（前郷）が選手宣誓を行い、熱い戦いがスタートしました。

当日は、30度を超える真夏日となりましたが、参加選手は水しぶきを体いっぱいに浴びるなど爽快感を堪能しました。上位3チームへの表彰のほか、カップル、レディース、親子の各賞に加え、20回大会を記念して20位のチームにゴムボートが贈られました。ゼッケン抽選会も行われ、湖畔でのやすらぎのひとときとなりました。

町内からは7チーム12人が出場し、有馬治さん（弁天）・近藤英也さん（猿橋）ペアが6位に入る健闘を見せてくれました。

西和賀高校漕艇部の協力を得て

湖畔には多く人が応援に

（敬称略）

【大会結果】上位３チーム

1位　中村晴興・後藤靖弘（奥州市）24分42秒
2位　佐藤　努・佐藤奈保子（矢巾町）24分58秒
3位　今野慎一・佐藤　悟（奥州市）25分05秒

カップル賞　赤坂繁忠・遠藤雅子（盛岡市）
レディース賞　小野寺純子・橋本美由紀（奥州市）
親　子　賞　小原力斗・小原健一（奥州市）

【町内出場チーム】

6位　有馬　治（弁　天）・近藤英也（猿　橋）25分35秒
16位　米澤隆光（太　田）・佐々木隆嗣（前　郷）30分27秒
23位　小澤理恵（貝　沢）・髙橋知恵（北上市）32分21秒
34位　高橋　大（川　尻）・高橋花枝（川　尻）36分11秒
35位　照井陽子（川　尻）・高橋麻里子（小繋沢）36分33秒
43位　小野寺覚（小繋沢）・高橋芳幸（新　町）39分53秒
49位　鈴木哲平（貝　沢）・佐藤　綾（一関市）43分15秒

町内からの出場艇

有馬・近藤ペア

小澤・高橋ペア

米澤・佐々木ペア

照井・高橋ペア

高橋夫妻

鈴木・佐藤ペア

小野寺・高橋ペア

西和賀銀河高原まつり＆雪氷まつり

真夏の雪遊び

7月17日、沢内銀河高原ホテル前特設会場で西和賀銀河高原まつり＆雪氷まつりが行われました。

二つのまつりを同一で開催

例年、雪氷まつりは沢内マスターズマラソンと同日に行っていましたが、今年は貝沢で行われている銀河高原まつりに併せて開催されました。

冬に降った雪を貯蔵し、真夏にこの雪を使ったまつりが楽しめる雪氷まつりは24回目を数え、地ビールをはじめとする飲食コーナーが大好評の銀河高原まつりと一緒に開催することで、町内外から多くの来場者が訪れました。

会場には、雪山すべり台も設置され、子どもから大人まで真夏の雪遊びを満喫しました。そのほか、雪氷まつりで恒例となっている保育園児などの「雪氷みこし」や新たに「氷柱早切り選手権」なども行われ、涼しさも演出されました。

物産コーナーでは採れたての野菜や花などが、飲食コーナーではおなじみの銀河ビールや銀河の里ジェラート、イワナの塩焼きなど、西和賀町の名産が取り揃えられ、多くの来場者で賑わいました。

保育園児による雪氷みこしは会場を盛り上げました

重さ3.7kgのビール樽投げ

暑さを忘れさせる雪氷すべり台

「平泉」の文化を紹介

さらに、今年は、県内の「平泉」が世界文化遺産に登録されたことを記念し、平泉世界文化遺産パネル展や平泉に関する紙芝居の読み聞かせなどを行い、登録された喜びを来場者と分かち合いました。

平泉世界文化遺産パネル展

ひんやりとした氷柱を汗だくになって切ります

利きビール大会では全員が大正解

昨年の沢内甚句全国大会およね杯優勝
佐野より子さんの熱唱

雪国文化賞

越後雪かき道場（新潟県）に

今回も雪氷まつりの中で、第21回雪国文化賞の授与式が行われました。

今年は、新潟県長岡市で活躍している『越後雪かき道場』（上村靖司代表）に授与されました。

同道場は、NPO中越防災フロンティアが中心になって展開され、雪かきの知識や技術を伝えていく組織です。過疎や高齢化が背景にあり、地域外からのボランティアの支援を得ていくために、雪に不慣れなボランティアに対し地元のベテランが雪かきの知識や技術を伝授していくという活動を行っています。

受賞した上村代表は「雪を研究する者として雪国文化賞の受賞はたいへん嬉しいです。雪かきの手伝いというより人と人の交流がメインの活動。さまざまな文化をはぐくみながら、私たちが今ここに生きていることこそが、後に伝える大切なことだと思います」と受賞の喜びを話していました。

町では、平成3年から雪国文化の向上に顕著な個人・団体に雪国文化賞を授与しています。

表彰状を受け取る上村代表（右）

春の叙勲　瑞宝双光章を受章

山﨑　行夫さん
（湯本・80歳）

山﨑行夫さんは、長年にわたる地方自治の進展および町勢発展に尽力した功績が認められ、瑞宝双光章を受章しました。

山﨑さんは昭和28年6月に当時の湯田村に勤務し、昭和62年4月から平成元年6月までの2年間湯田町収入役として、翌7月から平成9年6月までの8年間にわたって湯田町助役として在職し、豊富な行政経験と卓抜した識見をもって44年間にわたり地方自治の進展に貢献してきました。

収入役時代から、平均寿命の延びや若年者の町外流出に過疎化が進行し、65歳以上の高齢化比率が県内で2番目に高い状況にあり、高齢者の福祉問題は町の大きな課題でした。「高齢者が安心して暮らせる町」を目指し、冬期間の雪下ろしや通院などに不安を抱えている高齢者が安心して生活できるよう高齢者福祉施設の整備に努めたほか、デイサービスセンターを整備し、在宅での暮らしの支援にも努めました。その結果、冬期間の居住に重点をおきながら通所事業を行うという点で全国にもまれにみる形の福祉施設として、平成3年7月に、高齢者生活福祉センター「悠々館」を完成させるなど、町民の福祉向上に情熱を捧げました。また、町の過疎化を防止するため、平成7年から若者の定住や後継者確保対策の一環として、町内に在住する人や転入した人が結婚、出産した場合に最高で30万円の祝い金を支給する「定住促進祝金支給事業」の確立にも尽力しました。

山﨑さんは、財団法人湯田町自治振興公社理事長を10年間務めるなど、温泉を活用した観光ツアーの企画や地元特産品の販売などにも力を注ぎました。

今回の受章にあたり、山﨑さんは「今回の受章は職場の先輩や同僚、地域の皆さん、そして家族の協力のおかげです。町の仕事は私達が勤めていた時代と変わってきているが、町民に密着した仕事をするということは同じです。若い職員が多いので今後に期待しています」と話し、今後の町の発展に期待を込めていました。

【主な経歴】

湯田町職員　昭和27年～昭和62年
（昭和39年8月町政施行。それ以前は湯田村職員）
湯田町収入役　昭和62年～平成元年
湯田町助役　平成元年～平成9年
湯本行政区長　平成11年～平成22年
㈶湯田町自治振興公社理事長
平成元年～平成11年
湯田町体育協会会長
平成3年～平成18年
和賀郡体育協会会長
平成3年～平成12年
湯田町陸上競技協会会長
平成3年～平成17年
西和賀町陸上協議会会長
平成17年～平成18年

民生委員として尽力

佐々木正勝さんが厚生労働大臣特別表彰を

民生委員・児童委員として社会福祉の向上に尽力した佐々木正勝さん（前郷）がこのほど、厚生労働大臣特別表彰を受けました。

細井町長から佐々木さんへ伝達されました

この表彰は、法律により民生・児童委員は75歳を超えての再任が原則認められておらず、長きにわたり尽力してきた委員に厚生労働大臣が特別に表彰を行うものです。

佐々木さんは平成7年12月から民生・児童委員になり、平成22年11月まで15年間活躍しました。このほか、役場を平成5年3月に退職し、同年4月から平成21年3月まで前郷公民館長を16年務めるなど、地域活動にも貢献してきました。

表彰伝達式は5月25日、湯田庁舎町長室で行われ、細井洋行町長から表彰状が手渡されました。民生・児童委員は、住民の福祉向上のために相談や指導などを行うほか、福祉事務所への協力活動を行う民間の奉仕者です。佐々木さんは、「町内にいる39人の民生児童委員の代表でいただいた表彰です。今後も、求めに応じてアドバイスなどを行い、地域貢献に努めたいです」と話していました。任期を終える3日前のみぞれの降る夜に、一人暮らし世帯を回り灯かりがついていることを確認して歩き、自身が学んでいる俳句で、15年間の思いを振り返りました。

「霙（みぞ）るるや　恙（つつ）が無きしか　灯る火に」

国保 各種証が更新されます

～現在手元にある各種証の有効期限は7月31日まで～

◎高齢受給者証

高齢受給者証（以下、受給者証）は、70歳以上75歳未満の国保の被保険者に交付されます。所得に応じた医療費の自己負担割合が記載されていますので、大切に保管し、病院にかかるときには必ず持参して保険証と一緒に窓口に提示してください。

この受給者証は、毎年7月末が有効期限となっていますので、新しい受給者証は7月中に該当者に郵送されます。新しい受給者証が届いたら記載内容に間違いがないかを確認してください。古い受給者証は記載内容がわからないように細かく裁断するなどして各自で破棄してください。

国民健康保険高齢受給者証

交付年月日 平成22年 8月 1日

記号番号	000－00000	
世帯主 住所	岩手県和賀郡西和賀町川尻40－40－71	
世帯主 氏名	西和賀 太郎	男・女
対象被保険者 氏名	西和賀 太郎	男・女
対象被保険者 生年月日	昭和 ○年 ○○月 ○○日	
一部負担金の割合	2 割（平成24年3月31日までは1割）	
発効期日	平成23年 8月 1日	
有効期限	平成24年 7月 31日	
保険者番号並びに保険者の名称及び印	030650 西和賀町	

▶高齢受給者証は白色です。

◎限度額適用認定証

70歳未満の国保の被保険者は、入院時に「限度額適用認定証」（以下、認定証）を医療機関の窓口に提示すると、一か月毎の医療費が高額になった場合でも、支払う金額が世帯ごとの所得区分に応じた自己負担限度額（表参照）までとなります。また、住民税非課税世帯の場合は、食事代も減額されます。

この認定証は、毎年7月末が有効期限となっています。引き続き入院が必要な方や新たに入院する方は、役場の窓口で認定証の交付申請の手続きをしてください。申請の際は、印鑑（現在認定証をお持ちの方は認定証も）をご持参ください。

なお、入院時に認定証を提示できなかった場合でも医療費が高額になったときは、申請すると、限度額を超えた分が後から支給されます。

国民健康保険限度額適用認定証

交付年月日平成22年 8月 1日

記号	000	番号 00000
世帯主 住所	西和賀町川尻40-40-71	
世帯主 氏名	西和賀 太郎	男・女
適用者 氏名	西和賀 太郎	男・女
適用者 生年月日	昭・平 ○年 ○○月 ○○日	
発効期日	平成 23年 8月 1日	
有効期限	平成 24年 7月 31日	
適用区分	B	
保険者番号並びに保険者の名称及び印	030650 西和賀町	

▶限度額適用認定証はクリーム色です。

■自己負担限度額

70歳未満の人	
区分	自己負担限度額
上位所得者※	150,000円＋(医療費－500,000円)×1％ 4回目以降は83,400円
住民税課税世帯	80,100円＋(医療費－267,000円)×1％ 4回目以降は44,400円
住民税非課税世帯	35,400円 4回目以降は24,600円

※「上位所得者」＝国民健康保険加入者の所得合計が年額600万円を超える世帯

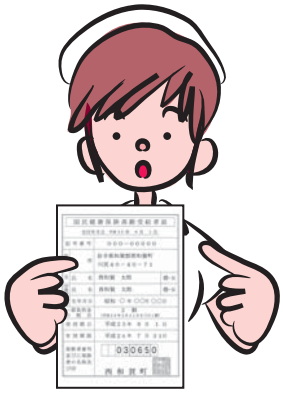
70歳以上の人		
区分	外来(個人単位)	外来＋入院（世帯単位）
一定以上の所得がある人※	44,400円	80,100円+(医療費-267,000円)×1% 4回目以降は44,400円
一般	12,000円	44,400円
住民税非課税世帯Ⅱ	8,000円	24,600円
住民税非課税世帯Ⅰ	8,000円	15,000円

※「一定以上の所得がある人」＝国保70歳以上の世帯員及び旧国保被保険者全員の住民税課税所得と収入額で判定

●住民税課税所得＝145万円以上

●収入額＝複数世帯で520万円以上、単身世帯で383万円以上

「旧国保被保険者」＝国保被保険者から後期高齢者医療の被保険者に変わった人



◎国保の手続きはお早めに

職場の健康保険をやめたときなど、国保へ加入する際には14日以内に届出を行いましょう。加入手続きが遅れると保険税はさかのぼって賦課されます。

同様に職場の健康保険に加入するときなど、国保を脱退する際にも、脱退手続きが遅れると、国保被保険者証が手元にあるため、うっかりそれを使って診療を受けてしまう場合があります。その場合には国保が負担した医療費はあとで返していただくこととなります。

被保険者の皆様の不利益になることが多数ありますので手続きは早めに行うようにしましょう。

北東北インターハイへ出場

競歩・西和賀高校2年・吉田寛典君（若畑）
レスリング・盛岡工業高校2年・米倉祐樹君（貝沢）

6月18日、青森県総合運動公園陸上競技場（青森市）で行われた、第66回東北高等学校陸上競技大会において、県立西和賀高等学校（北村東校長）2年生の吉田寛典君（沢内中出身）が5000m競歩競技で22分27秒48のタイムで見事4位に入賞し、インターハイ出場を決めました。

吉田君は5月に開催された県高校総体で準優勝し、東北大会に出場。東北大会では、県大会で優勝した選手を敗っての4位入賞となり喜びもひとしお。吉田君はインターハイに向け「4位でインターハイに出場できるギリギリの結果でしたが、せっかくつかんだチャンスなので、今まで練習してきたことをすべて出しきって思いっきりプレーしてきます」と意気込みを語ってくれました。

レスリング競技で出場する米倉祐樹君（沢内中出身）は、団体戦と50kg級で出場。5月に開催された県高校総体団体戦では、すべての試合で先勝し県高校総体で盛岡工業高校の2年ぶりの優勝を導き、6月23日に本県の八幡平市で開催された東北高校選手権でも3位入賞の原動力となりました。また、個人戦での出場となる50kg級はレスリング競技の中で最軽量のクラス。県高校総体で見事優勝しての出場で、上位入賞が期待されています。また、米倉君は7月9、10日に北上市で行われた県民体育大会でも2種目で優勝し、11月に山口県で行われる国体の出場も決めました。

今年のインターハイは北東北での開催となっています。陸上競技は8月3日から7日まで北上総合運動公園陸上競技場（北上市）で行われ、吉田君が出場する5000m競歩は8月4日に予選が、翌5日に決勝が行われます。また、米倉君が出場するレスリング競技は団体戦が8月1日に、個人戦が8月3日に八幡平市総合運動公園体育館（八幡平市）で行われます。地元岩手での2人の活躍に期待しましょう。

先頭集団で力走する吉田君（中央・県選手権大会）

東北大会での米倉君（右）の勇姿

沢内中 高橋君は東北大会に 陸上・共通800mで

7月2日、県営運動公園陸上競技場（盛岡市）で開催された、第57回全国中学校通信陸上競技大会岩手県大会で、沢内中学校3年の高橋佑哉君（猿橋）が共通800mで2分7秒18で4位に入賞し東北大会出場を決めました。高橋君は、6月に行われた同大会北上地区予選を1位で通過し、震災のため予選が実施できなかった地区を除いた予選記録の中でも3位に入るなど、今大会も期待されていました。

東北大会は、8月8日～10日に秋田県大館市の大館市長根山運動公園陸上競技場で開催されます。

沢内中学校では、同大会で高橋君のほか、同じく3年生の高橋汰空（たから）君（大野）も110mハードル・砲丸投・走高跳・400mの競技を行い、その記録を点数に換算し競う共通混成4種競技で7位入賞を果たしました。

力走する高橋君

県民体育大会バレー競技（成年男子B）で優勝

7月3日、水沢総合体育館（奥州市）で行われた岩手県民体育大会のバレー競技（成年男子B）で本町の選抜チーム（高鷹仁監督・湯川）が出場し、4年ぶり2度目の優勝を成し遂げました。初戦は強豪の滝沢村をセットカウント2－1で破り、決勝戦は住田町を2－0と寄せ付けず快勝しました。

岩手県ABC級水泳大会 淀川君（湯田小4年・川尻）が第3位

6月26日、湯本室内温泉プールで岩手県水泳連盟が主催、西和賀町水泳協会（溝渕郁夫会長・白木野）が主管する第56回岩手県ABC級水泳大会が行われました。この大会は、岩手県、秋田県、宮城県の3県から132人が出場し、東日本大震災復興支援大会として行われ、およそ70種目で熱戦が繰り広げられました。

本町からは、川尻の淀川絢音さん（湯田小6年）と泰誠君の兄弟が出場し、泰誠君が小学校4～6年50mバタフライで40秒88の記録で見事3位に入賞しました。

沢内中・柔道部と陸上部が県大会へ 2選手が東北大会へ出場決める

7月16日、17日の両日に行われた岩手県中学校総合体育大会に、沢内中学校柔道部と陸上部が出場しました。

柔道競技は二戸市総合スポーツセンターで行われ、団体戦は2回戦で敗退したものの、個人戦に出場した50kg級の3年生の髙橋汰空（たから）君（大野）が決勝に進み、決勝戦では久松選手（長内中）に惜しくも敗れましたが見事準優勝を成し遂げました。55kg級に出場した弟の航太（こうた）君（大野）も3位に入る健闘を見せました。また、陸上競技は岩手県営陸上競技場で行われ、共通800mに出場した髙橋佑哉君（猿橋）が5位に入る健闘を見せてくれました。柔道の汰空君、航太君は東北大会への出場権を獲得しました。

〈東北大会へ〉

（県大会での順位・カッコは学年）

柔道　個人　50kg級　第2位　髙橋汰空（3）

55kg級　第3位　髙橋航太（1）

〈県大会出場者〉

柔道　団体　沢内中学校

柔道　個人　66kg級　本多宏平（3）

73kg級　髙橋星哉（3）

陸上　400m　為田桂太郎（3）

800m　髙橋佑哉（3）

1500m　深澤諒太（3）

3000m　吉田雅昴（3）

800m　北村　渚（1）

1500m　田中風花（1）

県大会で優勢に試合を進める髙橋汰空君（右）

髙橋哲雄さん（清水ヶ野）が県陸協会長賞を受賞

町陸上競技協会長である髙橋哲雄さんが、6月25日に「岩手県陸上競技協会会長賞」を受賞されました。この賞は長年にわたり県の陸上競技の発展に寄与した人に与えられるもので本町では初受賞となります。髙橋さんは、競技者としても短距離選手として県内外で活躍したほか、30年以上の長きにわたり競技審判員を務め、各種大会の運営や青少年の健全育成普及に尽力してきた功績が認められました。現在も、町陸上競技協会の会長をはじめ、様々な分野の要職を歴任するなど地域のリーダーとしても活躍されています。本当におめでとうございます。

県陸協会長表彰を受賞した髙橋さん

陸上競技トップ選手がやってきた

湯田小でハードル競技を指導

6月24日に、町教育委員会と町立湯田小学校（佐々木勝広校長）が主催するスポーツ選手活用向上事業陸上教室が同校で行われました。この事業は、文部科学省・公益財団法人日本体育協会「子どもの体力向上啓発事業」の一環として行われ、講師は100mハードルの元日本記録保持者の大朝尚子（旧姓：小林）さんで、湯田小学校5、6年生51人がトップアスリートの指導を受けました。

大朝さんは、講話で「夢を持ってそれに向かってがんばることが大事」と話し、オリンピック出場を目指して取り組んできた様子、そして0．03秒の差でオリンピックに行けなかった悔しい体験、その後、目標を見失いハードルが嫌いになったこと、新たに指導者としてオリンピック選手を育てることに目標を定めた経緯などを話しました。

実際の高さや距離を測定
（右から2人目が大朝さん）

当日は、大雨で実技は体育館で行われましたが、ストレッチやハードルを跳ぶための基礎練習を行い、実際に公認競技で使われるハードルに触れ、高さや距離を体験しました。最後はリズムよくハードルを跳ぶ練習を行い、ほとんどの児童がテンポよく跳んでいました。

閉会式で大朝さんから「今日のハードル体験をきっかけに将来のオリンピック選手を目指してください。ハードル以外でも自分の目標が達成できるようにがんばって欲しいです」と児童たちへ激励の言葉が送られ、6年生の淀川絢音さん（川尻）が「最初はハードルに興味がなかったけど、体験して面白いことに気づきました。秋の陸上記録会に今日の体験を活かしていきたいです」とお礼の言葉を話しました。

未来のオリンピック選手を目指し

西和賀トピックス

各委員から利用促進のための意見が出されました

薪ストーブ普及を目指して

町は、７月５日に町内の関係機関や団体などで組織する森林エネルギー利用促進協議会を設立しました。この協議会は、平成22年度に策定した「薪利用最適化システム構築計画」を推進していくことを目的とし、森林エネルギー普及のための研修会の開催や薪ストーブの展示会開催などが盛り込まれた事業計画などが承認されました。会長には町森林組合代表理事組合長の照井洸さん（長瀬野）が、副会長には町社会福祉協議会事務局長の髙橋純一さん（小繋沢）が選任されました。

計画では平成 29 年度までに薪利用世帯 50％、1100 世帯以上を目指しており、町で９割を占めている森林エネルギーの活用を図っていきます。

和賀川の清流を守る会設立40周年記念事業 すばらしい環境を守るために

７月１日、北上･西和賀地区の関係団体などで組織する和賀川の清流を守る会（会長・髙橋敏彦北上市長）の設立 40 周年記念事業が、本町の耳取地区親水レクリエーション広場で行われました。

記念事業には、湯田小学校（佐々木勝広校長）の４年生児童19人も参加し、ヤエザクラの記念植樹と錦秋湖にイワナ3,500匹の放流を行いました。同校の髙橋優人君は「イワナはぬるぬるしていました。元気に大きくなって欲しいです」と話していました。

県環境アドバイザーの佐井守さんから「和賀川流域の生き物について」と題した講演も行われ、今後も和賀川周辺の環境保全に努めていくことを確認し合いました。

参加者全員で記念撮影を

地域おこし協力隊員を委嘱

７月１日付けで地域おこし協力隊員として赤坂卓郎さんを委嘱しました。

地域おこし協力隊
赤坂　卓郎（柴波町）

教育委員に平藤壽子さん

６月17日に沢内庁舎議場で行われた定例議会で、欠員が生じていた教育委員に平藤壽子さんを選任しました。任期は６月23日から12月31日までとなります。

教育委員
平藤　壽子（左草）

新農業委員を選任

農業関係団体の役員等の変更により、新たに推薦のあった２人を選任しました。
任期は平成23年６月24日から平成24年10月31日です。

花巻農業協同組合推薦
吉田　正志（川舟）

西和賀町土地改良区推薦
藤原　輝夫（川舟）

交通事故死亡ゼロ継続へ 誓い新たに北上地方交通安全協会 湯田支会で1000日達成

７月９日、クアハウス巣郷温泉で関係者およそ 70 人が参加し北上地方交通安全協会湯田支会（真壁信男会長・上野々）の通常総会が行われました。

総会に先がけて優良運転者表彰と交通死亡事故ゼロ継続 1000 日達成を記念し、達成に尽力してきた個人、団体に湯田支会長表彰ならびに感謝状が贈られました。あいさつの中で真壁会長は「今の交通事情の中で 1000 日達成ができたことは、関係する皆さんのおかげです。危険は常にありますが、それぞれ地域で活動してもらっていることに感謝します」と話しました。表彰をされた個人、団体は次のとおりです。

〈湯田支会長表彰〉
玉泉寺　泉　全英
北上信用金庫西和賀支店

〈湯田支会長感謝状〉
有限会社　髙啓建築
湯之沢地区ＰＴＡ
新田郷交通安全会

継続へ誓い新たに

生命尊重の精神を後世へ

映画「いのちの山河」益金の一部を寄付

寄付金は遠藤副代表から太田理事長へ

６月24日、劇映画「いのちの山河～日本の青空Ⅱ～」製作・上映運動を成功させる岩手の会から、ＮＰＯ法人深澤晟雄の会へ映画の益金から50万円が寄付されました。

「いのちの山河」の県内上映は、昨年度まで20市町村で行われており、およそ２万５千人が同映画を鑑賞しているとのこと。寄付金は、今後さらに生命尊重の精神を後世へ引き継いで欲しいという同会の願いが込められており、同会の遠藤寿美子副代表から深澤晟雄の会の太田祖電理事長に手渡されました。太田理事長は「資料館の充実をという気持ちに答え、一生懸命頑張っていきたい」と話していました。

この日は、一関准看護高等専修学校の学生が同資料館の見学、当時保健師をしていた髙橋ミヨさん（新町）から、深澤村長時代の村の状態や乳児死亡率ゼロに向けて取り組んだ様子などを聞きくなど、医療職を目指す学生らにも生命尊重の精神が伝えられました。

自分の生きる道を探しに

西高生が町内企業を訪問

６月29日、県立西和賀高校（北村東校長）の就職を希望する３年生23人が、町内の企業訪問を行いました。この研修は西和賀商工会と西和賀町企業連絡協議会が主催し毎年実施しているもので、縫製工場やホテルなど町内８企業を訪問しました。

このうち、アウトドアスポーツウエアなどを製造している廣瀬産業㈱岩手沢内工場では、作業工程をたどりながら説明をうけた後、実際に使用されているミシンを使い作業体験をしました。作業を体験した佐々木竜也さん（川舟）は「思ったより使いやすかったし、作業は楽しく感じました」と話していました。また、精密部品・精密金型を製作している北上宝飾㈱では、西和賀高校を卒業し、４月から同社で働いている先輩から自身の体験からアドバイスを受けるなど、今後の進路の参考になったようです。

業務用ミシンで作業体験も

地域で子どもを育むために

湯田地区教育振興会を設立

小学校統合に伴い、旧小学校ごとに組織されていた教育振興会を実践班とし、新たに旧湯田町全体を対象とした湯田地区教育振興会の設立総会が７月５日、役場湯田庁舎で行われました。冒頭のあいさつで野中孝勇教育長は「学校が終われば子ども達は家に帰ります。学校が近くになくなってさみしくなったという気持ちがあると思うが、帰ってくる子ども達を見守りながら地域での運動も確立していって欲しいと思います」とあいさつしました。　総会では、設立までの経過報告、規約の承認、役員の選出を行ったほか、今年度の事業計画と予算を決定しました。具体的な取り組みとして、あいさつ標語の募集・配布、家庭学習週間の設定、読書活動の充実などが盛り込まれ、地域一体となり活動していくことを確認しました。

活発な意見交換が行われました

会長には田村壮一さん（川尻）、副会長には高橋悟さん（湯田）と高橋司さん（白木野）がそれぞれ選ばれました。

西和賀の四季を写真に

湯本温泉郵便局で写真展

髙橋成治さん（湯田）が、湯本温泉郵便局のロビーで自身が撮影した写真展を開催しています。

この写真展は、今年１月から12月までの１年間行われるもので、その時期にあった写真２枚を展示しています。７月は夏の花・テッセン、シロツツジ、８月は鳥海山の残雪、林道奥三ツ森山線からの遠望、９月はオロセ倉の湖上遊覧、10月は紅葉の白糸の滝などが展示される予定です。

郵便局を訪れていた女性は、「写真も大変すばらしいし、毎月作品を交換するという意気込みにもさらに感心します」と話していました。

湯本温泉郵便局に飾られている髙橋さんの写真

税務会計課からのお知らせです

【固定資産税について】

◇新増築の家屋の届出について

更地に建物を建てる場合は、どんなに小さい場合でも建設課に建築確認申請書を提出しなければならないことになっています。増改築の場合は10㎡以上です。その後、税務会計課職員がお伺いして、家屋評価をさせていただきますので、建築確認申請書は必ず提出するようお願いします。

建築確認申請に該当とならない10㎡未満の増改築については届出が必要です。家屋評価は、固定資産税の基礎となる評価額を正しく算出するために行う大切なものです。

また、昨年度以前において既に居宅、車庫、作業場等の家屋を新増改築された人で、まだ評価の済んでいない家屋がありましたら届出をしてください。届出が遅れると、一度に多くの固定資産税を納めていただくことになることがありますので、早めにご連絡いただきますよう、お願いします。

◇家屋の取り壊しについて

家屋を取り壊したときは、家屋滅失届を提出してください。

なお、登記している家屋を法務局で滅失登記の手続きをされた場合は、家屋滅失届の提出は必要ありません。

◇未登記家屋について

未登記家屋を売買、贈与、相続等により所有者が変更になった場合には、名義変更届を提出してください。

以上の届出がなされない場合、次年度も引き続き同じ条件で課税される可能性がありますので、お手数でも届出をお願い致します。

【税金の納付について】

今月をもって、平成23年度当初課税納税通知書の発送が終わります。

納税通知書が届きましたら、課税内容に誤りがないか納税通知書の内容を確認の上、納期限までに納付下さい。あらかじめ口座振替による納付を申し込んでいる人は、納期限の日が振替日となりますので口座残高のご確認をお願いします。

また、納付が困難な場合は必ず納期限の前に税務会計課までご相談下さい。

今月納めていただく税金と納期限

国民健康保険税　1期
固定資産税　2期
介護保険料　1期
後期高齢者医療保険料　1期

※納期限及び口座振替日は8月1日㈪です。

◆問い合わせ先
税務会計課　☎82－3283

町長雑記

細井洋行

○6月23日から24日にかけて、西和賀町での6月の記録更新となる集中豪雨で大きな被害をこうむりました。住宅や農地などで大きく被災された皆さんにお見舞い申しあげます。町としても一日も早い手当てを進めます。災害発生時は、対策本部を設置し対策をとりますが、被害が広範に及ぶなど情報収集に時間がかかる場合、特定箇所に対する出動などに時間がかかる場合もあります。まずは、「自分の家は」、「隣の家は」と、自助、共助の行動をお願いします。

○今年も暑い夏になりました。農作物に被害がないように祈ります。夏といえば高校野球、岩手県大会も開幕しました。「西和賀」の期待と大看板を背負って出場の西和賀高校。残念ながら1回戦で5―7沼宮内高校に敗れました。試合は全く互角の戦いでした。しかし、スポーツには必ず勝敗という決着があります。8回裏、逆転し2点リード、最終回あと三つで2回戦へ。9回、まさかの4失点で敗退。

○この劇的なドラマから、西和賀高校生は何を学んだか。反省すべき何かに気づいたら、ぜひとも高校生活の中で取り返しをつけて卒業していってほしい。偉人の言葉を贈ります。『人間は二通りしかない。成功者と失敗者ではない。成功も失敗もする人と成功も失敗もしない人である』…

○たかがスポーツでも敗を「失敗」と受け止めていただきたい。しかし、そこで気づくべき大事なことは、「失敗」という貴重なステージに参加したことです。このきっかけにより、「成功」のチャンスも身近に芽生えているということに自信を持つべきです。

○前震災復興相は、「岩手でキックオフして、3日でノーサイドになった」と―。これを聞いたラグビーファンは嘆きます。死力を尽くして戦った者同士が、互いの健闘をたたえる、その時を指す「ノーサイド」。不用意な言葉遣いは、人間性を露骨に教える。汗して学んだ青春の日々ほど貴重なものはない。感動をありがとう。

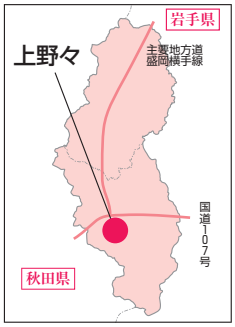
（7月15日）

おらほの見どころ

行政区紹介 ㉒

上野々区

お話を聞きました
行政区長　石川　洵（まこと）さん



▶世帯数と人口を教えてください。

世帯数は144世帯、人口は317人です。（６月末現在）

▶行政区の範囲は

現在の上野々区は、ほっとゆだ駅前の三五橋から県道湯川線の天子森までの区間1.5km、上野々39地割からなっています。

▶上野々区の見どころは

「ほっとゆだ駅」の近くに位置し、町の施設としては文化創造館（銀河ホール）・歴史民俗資料館などがあり、文化・芸術の拠点としてはもちろん、観光としても一躍を担っています。

特にも文化創造館は町随一の芸術施設であり、地域演劇祭など数多くの催しに利用されています。

地区での行事の特徴は、住民の健康増進を図ることを願って、公民館裏の広場を整備し自治活動支援事業が始まった初年度に用具を備え、グラウンドゴルフ８ホールを常設して子供会から高齢者まで幅広い参加によりスポーツ大会を開いているなど、他地区にはない特色のある活動かと思っています。他の行事としては盆踊り大会・還暦と古希を祝う会・雪あかり行事への参加など盛りだくさんの行事を協議会として取り組んでいます。特に雪あかりのテーマは「雪林の夢あかり」と称し郵便局前の林の中の数多くの雪像からのともしびは、観る人の気持ちを和らげ「幻想の世界」に誘い込むというほのぼのとさせる作品として、遠方から来る人からも好評を得ています。

▲地区交流会でのひとこま

西和賀にこの人あり ⑱

「すべては子どもたちのために」

沢内中学校長
森　川　静　子（せいこ）さん（55歳）新町

▶西和賀の印象は

雪が多いのは大きな特徴であって、そのことで保存食などの文化が進んでいる土地だと思っていました。春や夏に取れた山菜や野菜などを加工・保存して、冬に食べるなどのアイデアが豊富で、すばらしい食文化があると感じています。西和賀から著名な方が輩出されるのはそのような食文化が影響しているのではないでしょうか。各家庭で手をかけたものを食べる子ども達は、精神的にとても満たされていると感じています。

▶どのような教育を

社会教育に11年ほど携わってきたので、他の人よりは、子どもたちはみんなで育てるという意識が強いかもしれません。学校だけでは教育が完結されるものではないので、地域の皆さんに育ててもらい、家庭教育を大事にしていただきたいという気持ちがあります。

▶生徒の様子、どのような学校づくりを

大変落ち着いていますね。これもやはり食事からきているのでしょうか。

地域の人たちも大変教育熱心で、子どものために学校に足を運んでくれます。私のスローガンは「すべては子どもたちのために」です。どの職員にも子どもを主役に考えて仕事をするように求めています。また、環境整備についても力を入れていきたいと思っています。すべては生徒が主役ですので学びやすい環境を整えてあげたいですね。

▲民生委員さんにも出席してもらいクラブ壮行会を

絆 KIZUNA ―ともに歩む― ⑱

西和賀町との縁を大事に　対滝閣避難者の会「はまなすの会」

▲イベントのお礼を話す菅野さんと皆さん

「はまなすの会」（菅野兼治代表幹事・陸前高田市）は、４月から対滝閣（湯本）で生活していた陸前高田市のみなさんの自治会組織です。４月４日に本町に来てから、市や関係機関からの連絡調整やみんなからの意見や要望を取りまとめる組織として、対滝閣に避難したおよそ50人で組織しました。会では、企画してもらったイベントのお知らせ、参加できる人数などを取りまとめたり、会員でできるボランティアを把握し、福祉施設などで実践したりと様々な活動をしてきました。

そのはまなすの会の皆さんも、ほとんどが仮設住宅の入居が決まり、本町を離れることになりました。受入れをしていた対滝閣女将の大澤幸子さんは「皆さんは大変チームワークが取れていました。田植えなども体験したので、秋の収穫時期にはまた来てくれるでしょう」と話していました。また笑顔で西和賀町に来てくれることをお待ちしています。

役場から

患者輸送車の運休

町で運行している患者輸送車はお盆期間中の8月15日(月)と16日(火)は運休します。

●**問合先**／保健福祉課☎(85)3412

国や県から

北上地区消防組合職員を募集

北上地区消防組合では次のとおり職員を採用します。

●**予定人員**／消防職（深夜勤務等を含む交替制勤務）6人

●**受験資格**／高校卒業（来春卒業予定を含む）以上の学歴を有し、昭和63年4月2日以降に生まれた人（救急救命士資格取得者については、昭和61年4月2日以降に生まれた人）で、採用後北上市または西和賀町に居住できる人

●**1次試験日**／9月18日(日)

●**試験会場**／専修大学北上高等学校（北上市）

●**申込受付期間**／7月8日(金)～8月12日(金)

●**申込書提出先**／北上市消防組合消防本部総務課まで持参または郵送。郵送の場合は最終日の当日消印有効

●**問合先**／北上市消防組合消防本部総務課☎(65)5172

自衛官を募集します

自衛隊では、次のとおり自衛官を募集します。試験日など募集種目ごとに異なりますので詳しくはお問い合わせください。

●**募集種目**／①航空学生②一般曹候補生③自衛官候補生

●**応募資格**／①高卒（見込み含む）で21歳未満②③ともに18歳以上27歳未満

●**受付期間**／8月1日(月)～9月9日(金)

●**問合先**／自衛隊北上地域事務所☎(63)6736または町民課☎(85)2111

危険物取扱者保安講習実施のお知らせ

危険物取扱者保安講習は、消防法の規定により危険物製造所、貯蔵所または取扱所において危険物の取り扱い作業に従事している危険物取扱者が、3年毎に受講が義務付けられている法定講習です。講習の日程などは次のとおりですが、詳しくはお問い合わせください。

●**受講義務者**／現在、危険物製造所、貯蔵所または取扱所に従事している人で、平成20年4月1日～平成21年3月31日までの間に、危険物取扱者免状を取得した人

●**受講受付期間**／7月15日(金)～8月15日(月)

●**問合先**／(財)岩手県消防協会☎019―654―3991または岩手県総務部総合防災室☎019―629―5556

身体障害者を対象とした県職員採用試験

岩手県人事委員会では、身体障害者を対象とした岩手県職員採用選考試験を行います。試験日などは次のとおりですが、詳しくはお問い合わせください。

●**受付期間**／7月15日(金)～8月15日(月)

●**試験職種**／一般事務

●**一次試験日**／9月28日(日)

●**試験会場**／岩手県盛岡地区合同庁舎（盛岡市内丸）

●**問合先**／岩手県人事委員会事務局☎019―629―6241

調理師試験を実施します

岩手県では、平成23年度調理師試験を次のとおり実施します。受験資格等詳しくはお問い合わせください。

●**試験日時**／11月8日(火)

●**試験会場**／岩手県内合同庁舎等（10会場）（花巻会場）花巻地区合同庁舎

●**申込受付期間**／8月29日(月)～9月9日(金)

●**問合先**／岩手中部保健所☎0198―22―2331

運転免許証更新手続きはお済ですか？

東日本大震災に伴う特別措置により運転免許証の有効期間が延長されている人は（震災時に岩手県に居住し、有効期間の末日が本年3月11日から8月30日まで）、8月31日までに更新手続きをする必要があります。

8月は窓口が混雑することが予想されますので、お早目に手続きをお願いします。

なお、8月31日を経過した場合は、更新手続きはできないこととなり、免許が失効しますので注意してください。詳しくはお問い合わせください。

●**問合先**／盛岡運転免許センター☎019―606―1251

いわて合同面接会2011

岩手県と岩手労働局、いわて地域共同就職支援センターでは、一般求職者の人を対象とした「いわて合同面接会2011」を開催します。県内の企業・団体が参加します。事前申込みは不要で入場も無料です。

●**日時**／8月9日(火)13時00分～17時00分

●**場所**／県民情報交流センター「アイーナ」（盛岡市）

●**内容**／各企業ブースを自由に訪問できるほか、就農、福祉関係、ハローワーク盛岡による就職相談ができます

●**問合先**／いわて地域共同就職支援センター☎019―651―0415

不正大麻・けし撲滅運動

岩手県では、6月6日(月)～8月19日(金)まで不正大麻・けし撲滅運動を行っています。若者による大麻の乱用が大きな社会問題となっていますが、自生の大麻や不正と知らずに植えられてい

る「けし」が皆さんの周りにもあるかもしれません。地域全体で呼びかけて不正大麻・けしを撲滅していきましょう。

●**問合先**／岩手県中部保健所☎019－22－2331

その他

北上信用金庫ATM休止のお知らせ

北上信用金庫では、コンピューターシステム更新のため、8月7日と9月17日～19日にATMを休止します。これらの日は終日ATMが利用できませんので、払い戻しなどはお早めに準備してください。

●**休止日**／

8　月
7日(日)
9　月
17日(土)
18日(日)
19日(祝)

●**問合先**／北上信用金庫西和賀支店☎(82)2220

斑点米カメムシ類の防除を～ミツバチへの被害に注意～

8月は斑点米カメムシ類の防除時期です。県内ではここ数年、水稲の斑点米カメムシ類の防除時期にミツバチの大量死が発生しています。このようなことが起こらないように、次の対策を行うようお願いします。

■**水稲農家の対策**

①養蜂家への防除時期の伝達（散布の2週間前）②適期防除（穂揃い1週間後）③農薬の飛散防止など

■**養蜂家の対策**

①水場の確保（ミツバチを水田に近づけない）②周辺の農家への巣箱の位置の周知③巣箱の移動など

西和賀地域の本年のカメムシ防除適期は8月16日～21日頃ですが、水稲の生育状況やカメムシの発生状況などに応じて防除時期が変わってきます。防除時期に関する今後の情報にご注意ください。

●**問合先**／中央農業改良普及センター西和賀普及サブセンター☎(82)3125またはJAいわて花巻西和賀地域営農センター☎(85)3301

相続登記は司法書士へご相談ください

岩手県司法書士会では、相続に関する無料相談を実施します。相続を登記するとは、相続した不動産の名義を変更することをいいます。相続登記には期限が定められておらず、また、登記手続を行わなければ罰せられるというわけでもないため、手続きが遅れがちになるばかりか、何代にわたって放置してしまうこともあります。心当たりのある場合はどうぞご相談ください。

●**日時**／8月1日～8月31日（土日祝日を除く）

●**場所**／県内の各司法書士事務所

※各司法書士事務所により休みが異なりますので、相談前にお問い合わせください。

●**問合先**／岩手県司法書士会☎019－622－3372

●**無料相談電話**／☎0120－823－815（10時～13時まで）

戸籍の窓

（敬称略）　6月16日～7月15日受付分

※掲載を希望しないこともできます。届け出の際にお申し付けください。

ご誕生おめでとうございます

髙鷹萌美（めぐみ）（女）　重春　湯川

お悔やみ申し上げます

髙橋直夫	(86歳)	6月16日	湯本
髙橋國雄	(84歳)	6月18日	前郷
東海林ミエ	(77歳)	6月20日	川尻
佐藤哲文	(93歳)	6月29日	下前
越後谷幹雄	(76歳)	7月3日	大沓
髙橋昭公	(81歳)	7月7日	川舟
平澤シマイ	(89歳)	7月14日	泉沢

住民の動き（6月末）

項目	実数	前月との比較
転入	5	－9
転出	14	－3
出生	2	－2
死亡	9	－7
人口	6,792	－16
男	3,185	－8
女	3,607	－8
世帯数	2,467	－2

交通事故の状況（6月分）

区分	物損	人身	負傷	死亡	飲酒
実数	14	0	0	0	0
累計	(98)	(2)	(2)	(0)	(0)

（　）は1月からの累計

火災・救急の状況（6月分）

■**火災**

区分	火災出場件数
件数	0件（2件）

■**救急**

区分	救急出場件数			合計
	交通	急病	その他	
件数	0件（3件）	8件（70件）	8件（56件）	16件（129件）
搬送人員	0人（3人）	8人（65人）	7人（53人）	15人（121人）

（　）は1月からの累計

にしわが 写真スケッチ

「あやめ公園にて」

撮影者：千田フミさん（上野々）

暑い夏！少しの風にあでやかな姿を揺らすあやめたち。
草取りをしてくれた皆さんありがとう。見に来てくれた皆さんありがとう！と言っているようでした。
（平成23年7月上旬撮影）

募集 **広報にしわがでは「西和賀写真スケッチ」に掲載する写真を募集しています。**

○写真の題材やカメラの種類は問いません。
○写真データまたはプリント写真に、100字程度のコメント、撮影場所、撮影者の住所と氏名を添えて役場総務課までお送りください。（郵送または電子メール）
○お送りいただいた写真が多数の場合は、１点選考させて頂きます。あらかじめご了承ください。

送付先／〒029-5512 岩手県和賀郡西和賀町川尻40-40-71
西和賀町役場総務課広報係まで
電子メール／soumu@town.nishiwaga.lg.jp

おすすめの一品 Vol.42

冷やしかけ山菜とろろそば

■紹介者　母ちゃんの店「わがや」スタッフ一同

材料
舞茸（なめこ・さわもだしなどでも良いです）
みず　ワラビ　うど　こごみ　山芋　ゆでそば

作り方
① 山菜を下ごしらえする。塩蔵しているものは銅なべで色出しをする。
② めんつゆで濃いめにかけ汁を作り、そばにかける。
③ 山菜・擦った山芋を盛りつけて出来上がり。

今年も暑い夏が続きそうですね。この暑さを乗り切るために、または来客用として西和賀の山菜を贅沢に使った冷たいおそばがおすすめです！

編集後記 てにをは

去る7月6日（水）。沢内中学校で老人クラブの方々との交流と伝承活動をかねて藤の鍋敷き作りが行われ、講師助手として参加してきました。講師側の人数が足りないからということで、編み細工に興味がある私にも声がかかった次第です。会場についてみると、大先輩方が結構たくさんいらっしゃっていて、場違いか・・という思いが一瞬頭をかすめましたが、なかなか参加する機会はなさそうでしたので踏みとどまりました。手仕事歴が長い大先輩たちはさすがで、「耳が遠いから・・」「教えるのが下手だから・・」と言いつつも、始まるとスルスルと手が動き始めます。会場には楽しげな会話が飛び交う中、真剣に取り組む中学生の姿も見られました。決められた時間内に本人が完成させるとなるとなかなか難しく私が教えた生徒さんは若干、小さめになってしまいました・・・。ごめんなさい。
大先輩方の達者な手技・口技（？）、中学生の真直ぐな姿勢に元気をもらったひと時でした。
（広報編集委員　渡辺まい子）

例年より早い梅雨明けで毎日暑い日が続いています。熱中症予防には適量の塩分補給が重要なそうです。熱中症に気をつけて残り少ない西和賀の夏を乗り切りましょう。
（総務課広報担当　東　清彦）

広報 にしわが
■発行日／平成23年7月25日（毎月25日発行）
■編集・発行／〒029-5512 岩手県和賀郡西和賀町川尻40-40-71 西和賀町役場総務課 電話0197-82-2111 FAX0197-82-3111
■発行人／細井洋行　■編集人／高橋智　■印刷／鶴田印刷株式会社・横手市
VEGETABLE OIL INK